Actiphy ImageReplicator

セットアップガイド

第 4 版 2026 年 11 月

Actiphy

目次

1. はじめに 3
2. インストール 4
3. レプリケーション タスクの作成 6
4. レプリケーション タスクの管理 14
5. オブジェクトロックの設定 15
6. web コンソール設定 17
7. E メール通知設定 19
8. バックアップファイルのコピー・削除 20
9. リモート web コンソール接続 21
10. 参考情報 22

1. はじめに

Actiphy ImageReplicator は、「ActiveImage Protector」で取得したバックアップファイルを、別のストレージや遠隔拠点へ自動的に複製（レプリケーション）することで、バックアップデータの保護と可用性を大幅に向上させる無償のアドオンツールです。本ガイドでは、ImageReplicator の導入および基本的な設定方法について説明します。

1. 詳細な設定方法や制限事項については、オンラインヘルプの Web ページをご参照ください。
   https://webhelp.actiphy.com/AIR/v1/ja_JP/help/

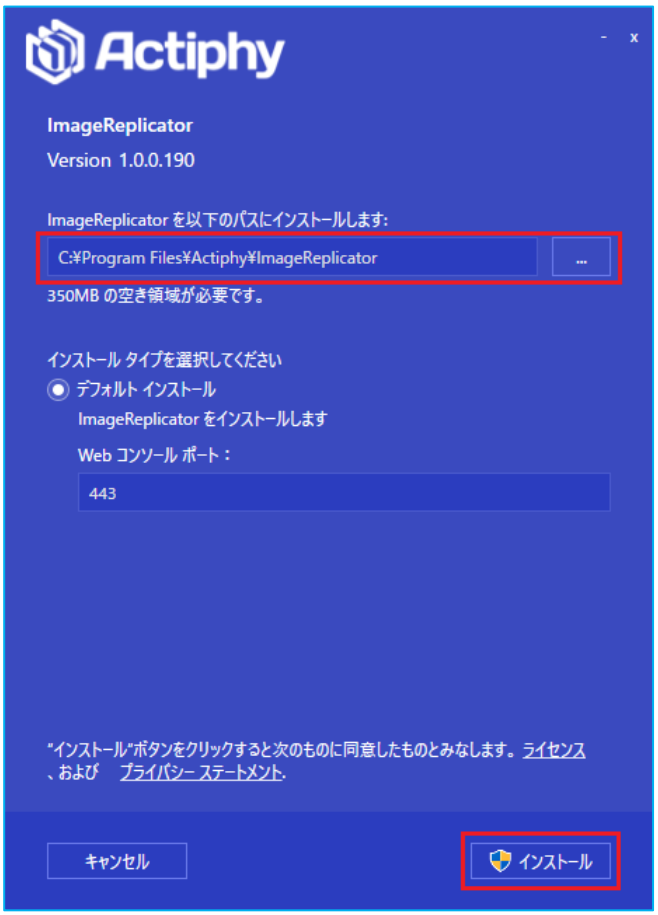
2. 導入先のコンピューターが ImageReplicator のシステム要件を満たしていることを、システム要件の Web ページで事前にご確認ください。
   https://www.actiphy.com/ja-jp/product/actiphy-imagereplicator/#system-requirements

2. インストール

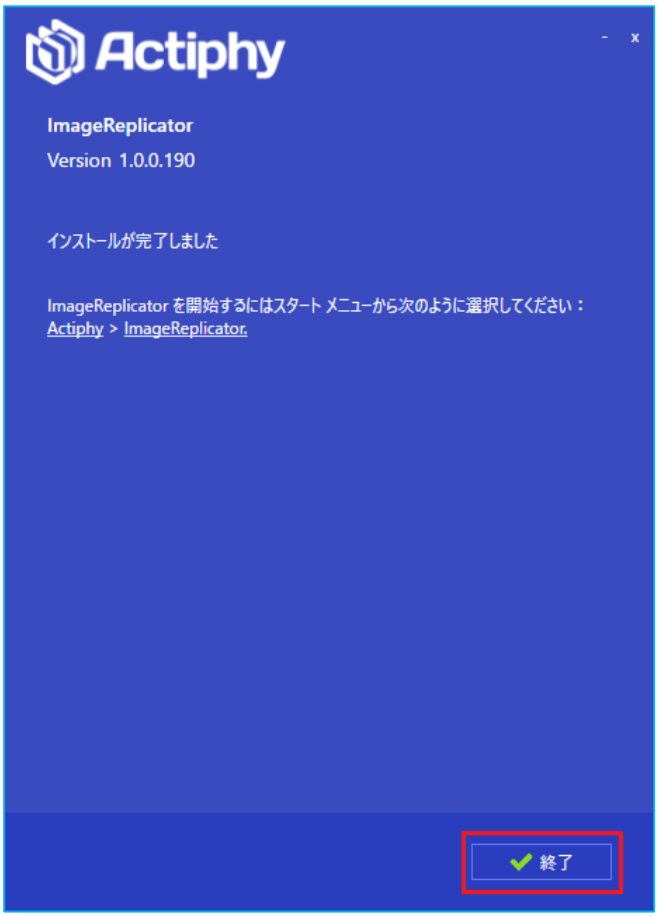
ここでは、対象コンピューターへの ImageReplicator のインストール手順について説明します。

1. Actiphy ImageReplicator のセットアッププログラム（ImageReplicator_v100_bxxx.exe）を実行し、インストーラーを起動します。
   ※ セットアッププログラムは、以下のアクティファイの公式サイトよりダウンロードできます。
   https://www.actiphy.com/ja-jp/download/update/

2. インストーラーが起動したら、［インストール］をクリックしてインストールを開始します。
   また、［ImageReplicator を以下のパスにインストールします：］の項目から、任意のインストール先パスへ変更することも可能です。



3. インストールが完了したら［終了］をクリックします。システムの再起動は不要です。

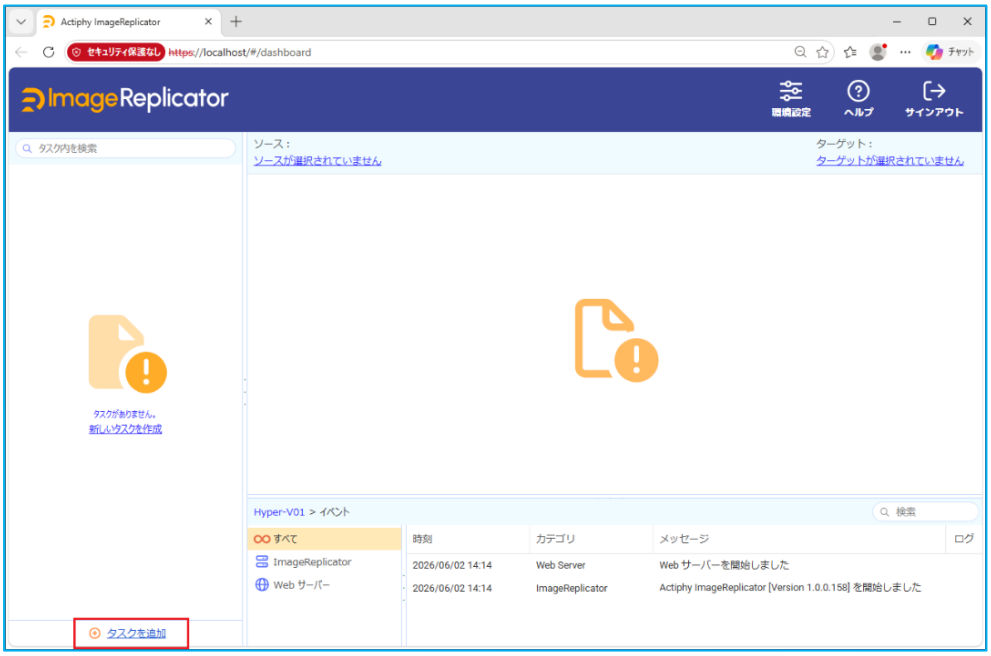


3. レプリケーション タスクの作成

ここでは、定期的にレプリケーションを自動実行するタスクの作成手順について説明します。

1. ImageReplicator の Web コンソールを起動します。
   Windows のスタートメニューから［Actiphy］→［ImageReplicator］をクリックするか、デスクトップ上の ImageReplicator アイコンをクリックします。

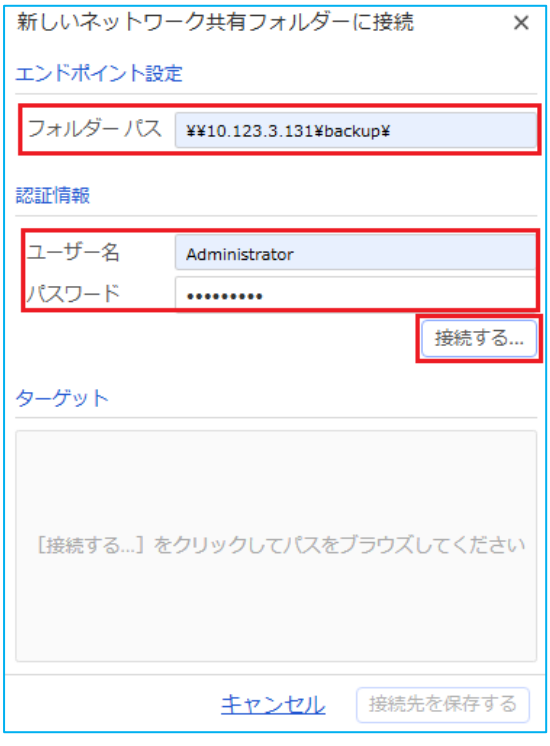
2. レプリケーション タスクを作成します。
   コンソール左下の[タスクの追加]をクリックします。



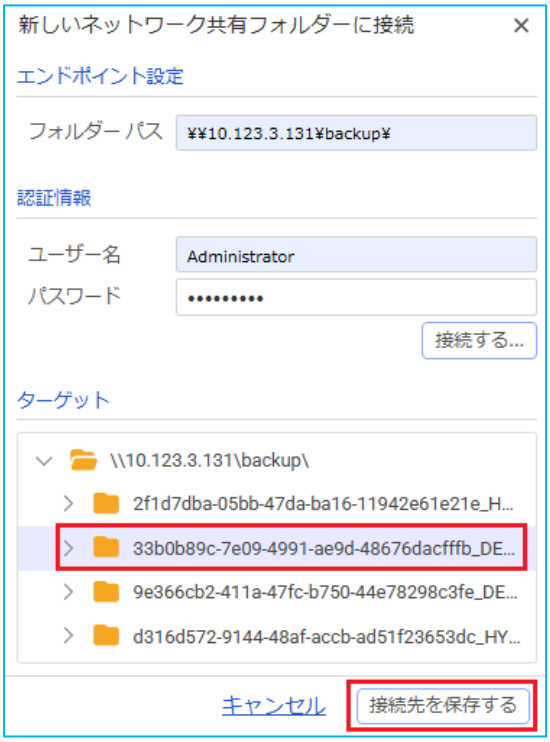
3. 対象のバックアップ保存先を選択します。
   コンソール左上の［ソース（ローカル／ネットワーク）］の参照ボタン［…］をクリックし、バックアップが保存されているフォルダーを［ローカル］または［ネットワーク］から選択します。
   本手順では、［ネットワーク］を選択し、［新規ネットワーク共有フォルダーを追加］をクリックします。



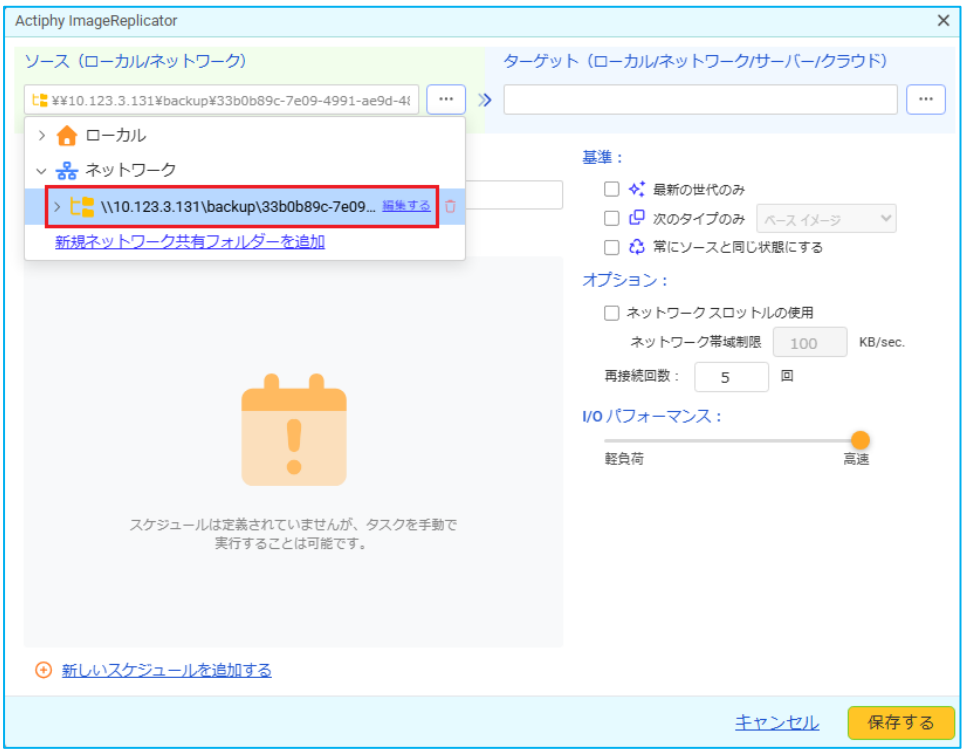
4. 保存先の共有フォルダーへ接続します。
   本手順では、［フォルダーパス］に「¥10.123.3.131¥backup」、［ユーザー名］に「Administrator」、［パスワード］に設定済みのパスワードを入力し、［接続する...］をクリックします。



5. 対象コンピューターの保存先フォルダーを指定します。
   共有フォルダーに接続すると、［ターゲット］に各コンピューターのバックアップタスクごとに作成された保存先フォルダーがツリー表示されます。レプリケーション対象のコンピューターの保存先フォルダーを選択し、［接続先を保持する］をクリックします。



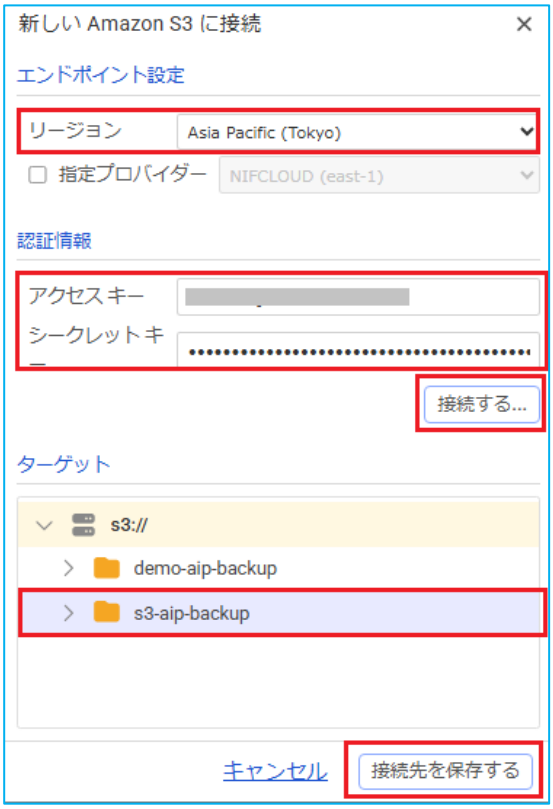
6. ［ソース（ローカル／ネットワーク）］に、指定した対象コンピューターの保存先フォルダーが追加されます。



7. レプリケーション先を選択します。
   コンソール右上の［ターゲット（ローカル／ネットワーク／サーバー／クラウド）］の参照ボタン［…］をクリックします。レプリケーション先は、ローカルストレージやネットワーク共有のほか、各種クラウドストレージを利用できます。
   本手順では、クラウドストレージ［Amazon S3］を選択し、［新規 Amazon S3 バケットを追加］をクリックします。



8. Amazon S3 バケットに接続します。
［リージョン］を選択し、［アクセスキー］と［シークレットキー］を入力して［接続する...］をクリックします。対象のバケットまたはフォルダーを選択し、［接続先を保存する］をクリックします。



9. ［ターゲット（ローカル／ネットワーク／サーバー／クラウド）］に、指定したレプリケーション先が追加されます。



10. レプリケーションの実行方法を設定します。
    実行方法は［最新の世代のみ］、［次のタイプのみ］、［常にソースと同じ状態にする］から選択できます。
    本手順では、［常にソースと同じ状態にする］を選択し、保存先フォルダー内のバックアップファイルとレプリケーション先を同一状態にします。



(1) 最新の世代のみ
    最新世代のバックアップファイルをレプリケーションします。
    ※フルバックアップとそれに紐づく増分バックアップのセットを 1 世代として管理しています。

(2) 次のタイプのみ
    ベース（フル）、または増分バックアップのみレプリケーションします。

(3) 常にソースと同じ状態にする
    保存先フォルダー内のバックアップファイルとレプリケーション先を常に同一状態に保ちます。

11. 設定例

(1) 最新世代のみレプリケーション先に保存する場合

[最新の世代のみ]：有効、[次のタイプのみ]：無効、[常にソースと同じ状態にする]：有効

新しい世代のバックアップ作成後、レプリケーション処理により、レプリケーション先に存在する旧世代のバックアップファイルは自動的に削除されます。



(2) 最新世代の指定したバックアップ タイプのみをレプリケーション先に保存する場合

[最新の世代のみ]：有効、[次のタイプのみ]：有効、[常にソースと同じ状態にする]：有効

新しい世代のベース（フル）または増分バックアップ作成後、レプリケーション処理により、レプリケーション先に存在する旧世代のバックアップファイルは自動的に削除されます。



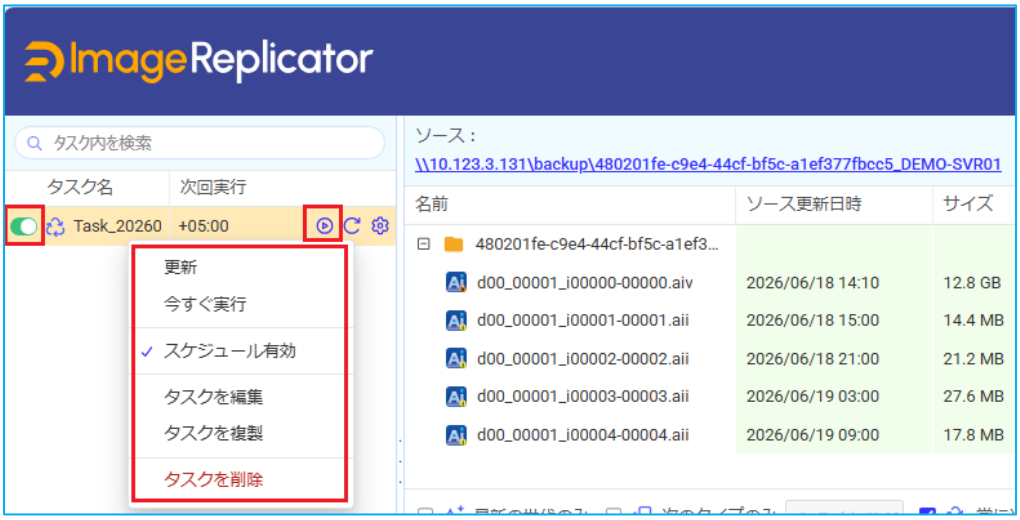
12. レプリケーションのスケジュールを設定します。
    スケジュールは、［即時］、［月単位］、［週単位］、［指定曜日］から設定できます。
    本手順では、［週単位］を選択し、毎日 5 時にレプリケーションを実行するように設定します。
    全ての設定が完了したら、[保存する]をクリックしてタスクの設定を保存します。以降は、設定したスケジュールに従って自動的にレプリケーションが実行されます。



4. レプリケーション タスクの管理

作成されたタスクは、コンソールのタスクリストに表示され、[タスク名]および[次回実行]の情報を確認できます。
ここでは、タスクの管理方法について説明します。

1. タスクの管理方法
   対象のタスク名にカーソルを合わせ、右クリックメニューから各種タスクの管理を行うことができます。



(1) タスクの手動実行・停止
タスク作成時の動作確認などの理由で手動実行を行う場合は、右クリックメニューから［今すぐ実行］を選択するか、右側の「再生ボタン」を押します。タスクを停止する場合は、右クリックメニューから［転送を停止］を選択します。

(2) スケジュールの有効・無効
メンテナンスなどの理由でスケジュールを一時的に無効にする場合は、右クリックメニューから［スケジュール有効］の左側のチュックを外すか、左側の「トグルボタン」を OFF にします。再度有効にする場合は、右クリックメニューから［スケジュール有効］を選択するか、左側の「トグルボタン」を ON にします。

(3) タスクの編集
タスクの設定を変更する場合は、右クリックメニューから［タスクを編集］を選択します。

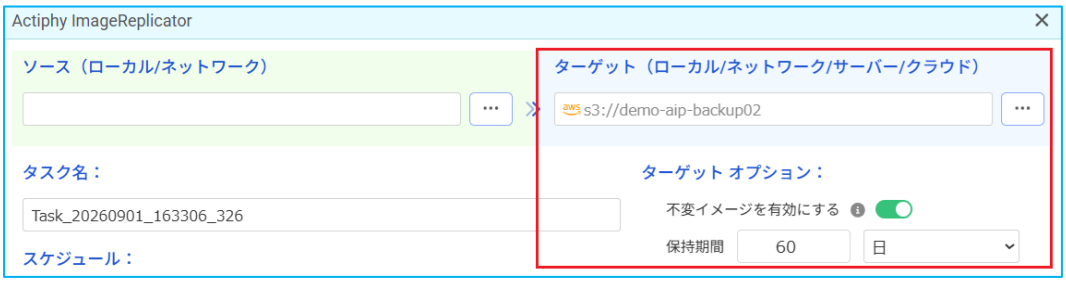
(4) タスクの複製
タスクの複製を行う場合は、右クリックメニューから［タスクを複製］を選択します。

(5) タスクの削除
タスクを削除する場合は、右クリックメニューから［タスクを削除］を選択します。
なお、一度削除したタスクは元に戻すことができませんので、操作には十分ご注意ください。

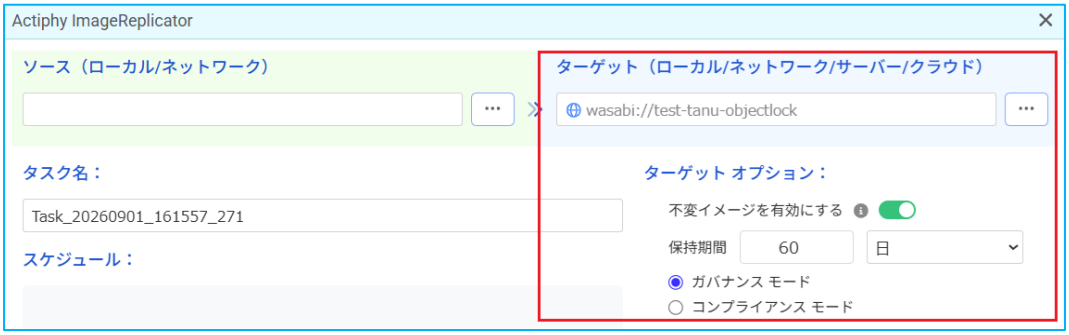
5. オブジェクトロックの設定

オブジェクトロックが有効化されている Amazon S3 、Wasabi、Microsoft Azure のバケットに対して設定できます。［ターゲットオプション］の［不変イメージを有効にする］を有効にすると、バケット側のオブジェクトロック設定を上書きし、バックアップイメージセット単位で保持期間が適用されます。

1. Amazon S3 の保持期間の設定例
   ［ターゲットオプション］からオブジェクトロックの［保持期間］を設定します。例えば［60 日］と設定した場合、バックアップイメージセット単位で 60 日間、書き換えおよび削除が禁止され、バックアップデータを安全に保護します。



2. Wasabi の保持期間の設定例
   オブジェクトロックのモードと保持期間を設定します。例えば、[ガバナンスモード]で［60 日］と設定した場合、バックアップイメージセット単位で 60 日間、ガバナンスモードによって書き換えや削除が禁止され、バックアップデータを安全に保護します。



3. 動作例

前提条件：

・バックアップスケジュール：週単位（日曜：フル、月曜～土曜：増分）

・世代管理：3 世代

・レプリケーションタイプ：[常にソースと同じ状態にする]

・レプリケーションスケジュール：1 回/日

・保持期間：60 日

⑴ 6 月 1 日：フルバックアップのレプリケーション

保持期限は、60 日後に設定されます。

対象バックアップ	実行日	保持期限
ベース（フル）バックアップ	2026/6/1	2026/8/1

⑵ 6 月 2 日：増分バックアップのレプリケーション

新規増分のレプリケーションにより、バックアップイメージセット単位で保持期限が延長されます。

対象バックアップ	実行日	保持期限
ベース（フル）バックアップ	2026/6/1	2026/8/2
増分バックアップ	2026/6/2	2026/8/2

⑶ 6 月 7 日：週内最終の増分バックアップのレプリケーション

増分バックアップが追加されるたびに、バックアップイメージセット単位で保持期限が延長されます。

対象バックアップ	実行日	保持期限
ベース（フル）バックアップ	2026/6/1	2026/8/7
増分バックアップ	2026/6/2	2026/8/7
増分バックアップ	2026/6/3	2026/8/7
増分バックアップ	2026/6/4	2026/8/7
増分バックアップ	2026/6/5	2026/8/7
増分バックアップ	2026/6/6	2026/8/7
増分バックアップ	2026/6/7	2026/8/7

※ オブジェクトロックの保持期間が終了しても、バックアップファイルが自動的に完全削除されるわけではありません。保持期間を過ぎた不要なバックアップファイルを完全に削除するには、手動で削除するか、クラウド側で自動削除設定を行ってください。

6. web コンソール設定

環境設定の［Web コンソール］では、Web コンソールへのアクセスに関する認証方法の設定およびユーザーアカウントの作成・管理を行うことができます。

1. 認証方法の設定

   ［環境設定］→［Web コンソール］をクリックします。［Web コンソール］画面の［認証オプション］にて、必要に応じて認証方法を設定します。パスワード認証に加え、二要素認証（2FA）を有効にすることで、セキュリティを強化することができます。



(1) ローカル接続時に認証を要求する

有効にすると、ローカル Web コンソールへアクセスする際にパスワード認証が必要になります。

(2) 全てのユーザーに 2FA を要求する

有効にすると、ローカルおよびリモートの Web コンソールへアクセスする際に、Google Authenticator などのアプリを利用した二要素認証（2FA）が必要になります。

2. 管理アカウントの設定

管理者アカウントのパスワード変更や二要素認証（2FA）の設定、ユーザーアカウントの追加を行います。



(1) 既定の管理者ユーザー[root]のパスワード

初期パスワードは「root」です。任意のパスワードに変更してください。

(2) 二要素認証（2FA）

［2FA を有効化］をクリックすると、Google Authenticator などのアプリを利用した二要素認証（2FA）の設定ができます。



(3) ユーザーアカウント追加

必要に応じて管理者ユーザーを追加できます。

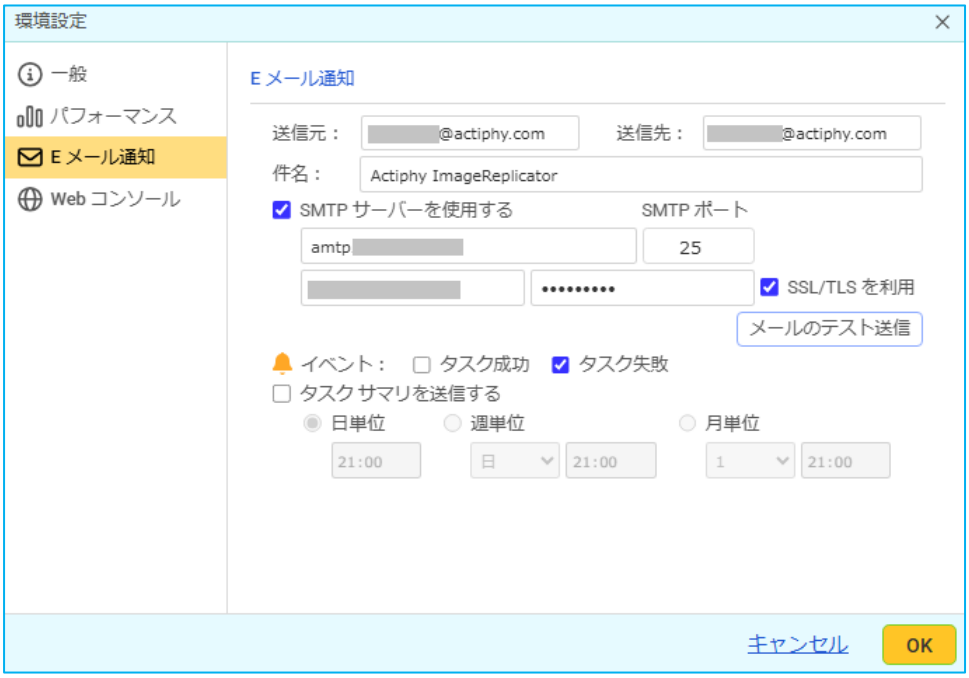
※追加したユーザーでは、既存ユーザーの変更・削除・新規作成はできません。

7. E メール通知設定

レプリケーションの実行結果や異常発生時など、あらかじめ設定したイベントに応じて指定したメールアドレスへ自動的に通知を送信する機能です。これにより、システムの稼働状況やトラブルの早期把握が可能となり、迅速な対応を支援します。

1. E メール通知設定

   ［環境設定］→［E メール通知設定］をクリックし、E メール通知の設定を行います。



(1) 送信元・送信先の設定

［送信元］・［送信先］にメールアドレスを入力することで、E メール通知を有効にできます。

(2) SMTP サーバーの設定

任意の SMTP サーバーを使用する場合は、必要な設定を行ってください。

(3) イベントの設定

「タスクの失敗」や「タスクの成功」など、通知対象とするイベントを選択します。選択したイベントが発生した際に、メール通知が送信されます。

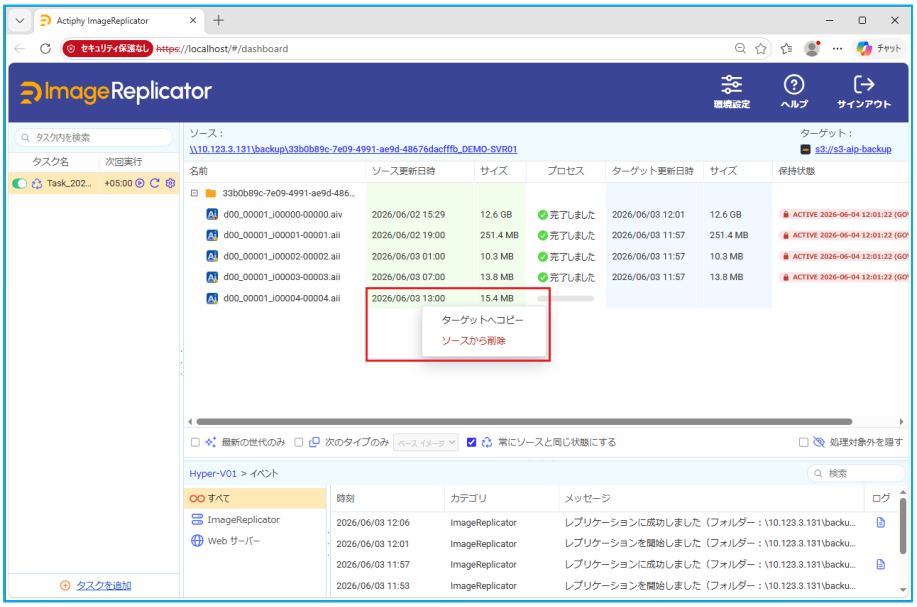
(4) メールのテスト送信

すべての設定が完了したら、［メールのテスト送信］を実行し、正常に送信されることを確認します。テストメールの受信を確認後、［OK］をクリックします。

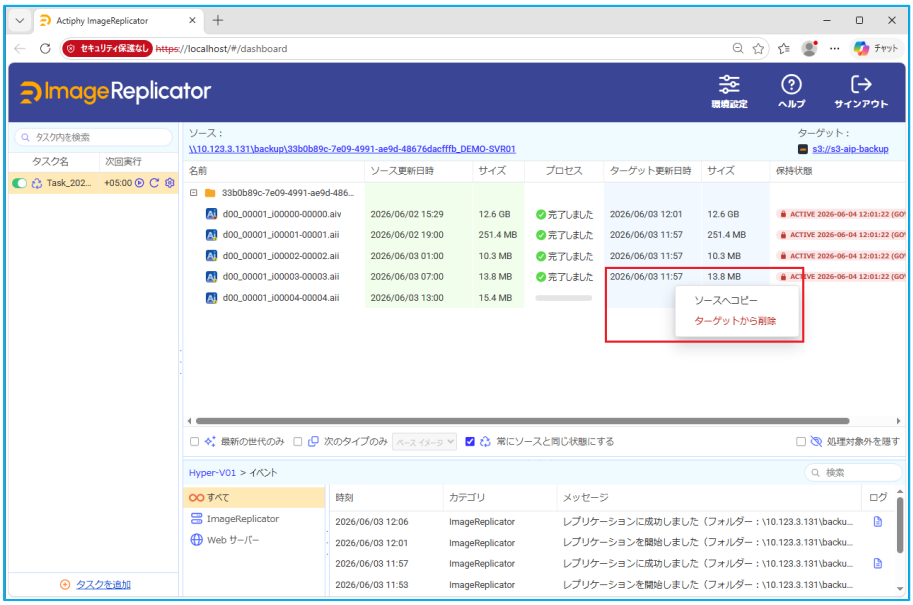
8. バックアップファイルのコピー・削除

保存先フォルダー（ソース）およびレプリケーション先（ターゲット）にあるバックアップファイルを、削除や相互コピーを行うことができます。

1. バックアップ保存先（ソース）からレプリケーション先（ターゲット）へのコピー・削除
   アイテムリスト欄に表示された対象バックアップのソース情報（ソース更新日時やサイズ）にカーソルを合わせ、右クリックメニューから［ターゲットへのコピー］または［ソースから削除］を選択します。



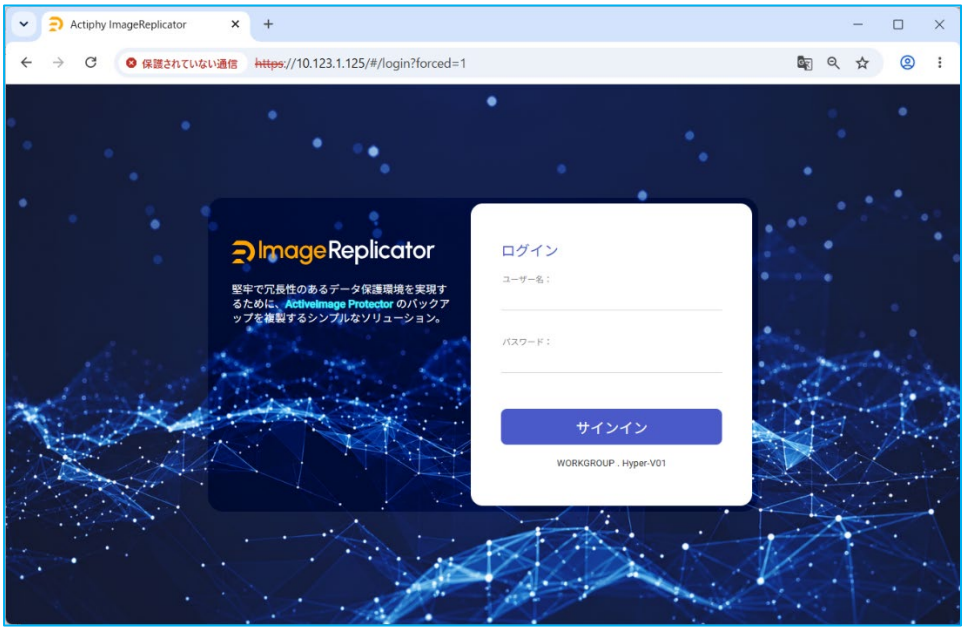
2. レプリケーション先（ターゲット）からバックアップ保存先（ソース）へのコピー・削除
   アイテムリスト欄に表示された対象バックアップのターゲット情報（ターゲット更新日時やサイズ部分）にカーソルを合わせ、右クリックメニューから［ソースへのコピー］または［ターゲットから削除］を選択します。



9. リモート web コンソール接続

リモートから ImageReplicator の Web コンソールに接続し、操作を行うことができます。接続には SSL プロトコルを使用し、ポート番号はデフォルトの「443」を使用します。

1. ブラウザーがインストールされた PC から、ImageReplicator が稼働しているコンピューターの IP アドレスを入力してアクセスします。Web ブラウザーから管理・操作が可能となるため、より柔軟な管理体制を構築できます。



10.参考情報

アクティファイの Web サイト

製品情報の他、各種資料やサポート情報、アップデートなど、総合的にご案内しています。

https://www.actiphy.com

ActiveImage Protector の FAQ

サポート情報のデータベースです。

https://actiphyhelp.zendesk.com/hc/ja/sections/13451048765081

ActiveImage Protector に関するお問い合わせ先：

株式会社 アクティファイ

営業本部

E-mail:sales@actiphy.com

TEL: 03-5256-0877

FAX: 03-5256-0878

© 2026 Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社アクティファイに所有権および著作権があります

本ガイド中のその他のブランド名及び製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。